



応募7800点! 県内最大の書道展を支える本校書道部

墨華香るまちフェスティバル

みなぎの書道展

「吉川高校生の成長物語」第17回

今年で第38回を数える「みなぎの書道展」は、書道界の発展に大きな功績を残した三木市吉川町奥谷出身の書道家 上田 桑鳩※の功績を称え、人々の書道に対する関心を広めるために毎年開催されています。

※上田 桑鳩(うへだ そうきゅう 1899~1968年)

書道の古典研究を基礎として、表現の自由を求め、きれいな字を書くことにこだわらず、墨のかすれや空間をうまく使ったり、書道以外の芸術を取り入れたりするなど、現代書(前衛書道)の先駆者として様々な作品を残した。「日本経済新聞」の題字を手がけたことでも知られる。



みなぎの書道展の応募資格は、兵庫県内在住もしくは在学の幼児・小学生・中学生・高校生です。今年は幼児189点、小学生5,113点、中学生1,530点、高校生968点、合計7,800点の応募がありました。この書道展の最大の特徴は、特別賞・入賞作品だけでなく、すべての作品が一堂に展示され、鑑賞できるという、他に類を見ないものであることです。



《 地域の書道文化醸成に貢献してきた書道部 》

応募作品の整理、展示シートへの作品入れ、審査会の補助等、県下随一の規模に成長した書道展を陰で支えてきたのが、本校の歴代書道部員たちです。特に今年は、3年生引退後は2年生4名のみ(1年生の皆さん、いつでも入部大歓迎です!)、顧問を加えても6名という少人数で、9月中旬以降、平日放課後に残ったり休みの日に出てきたりして作業に励み、開催に間に合わせました。

ちなみに、第1回(1985(昭和60)年)~第9回(1993(平成5)年)は「みなぎの書道展覧会」と称して、本校及び本校書道部が主催し、本校を会場に開催されていました。第1回の出品点数は938点でした。第10回(1994(平成6)年)以降が現在の名称・会場です。旧美嚙郡吉川町が三木市と合併したこともあり、途中、主催者の変遷はありましたが、常に本校書道部が「みなぎの書道展」最大の協力者、「緑の下の力持ち」でありつづけてきたことは特筆ものです。



兵庫県立 吉川高等学校

Yokawa High School

〒673-1129 三木市吉川町渡瀬300-12

Tel 0794-73-0068 Fax 0794-73-0167

